

独立行政法人  
自動車事故対策機構

# 中部療護センター

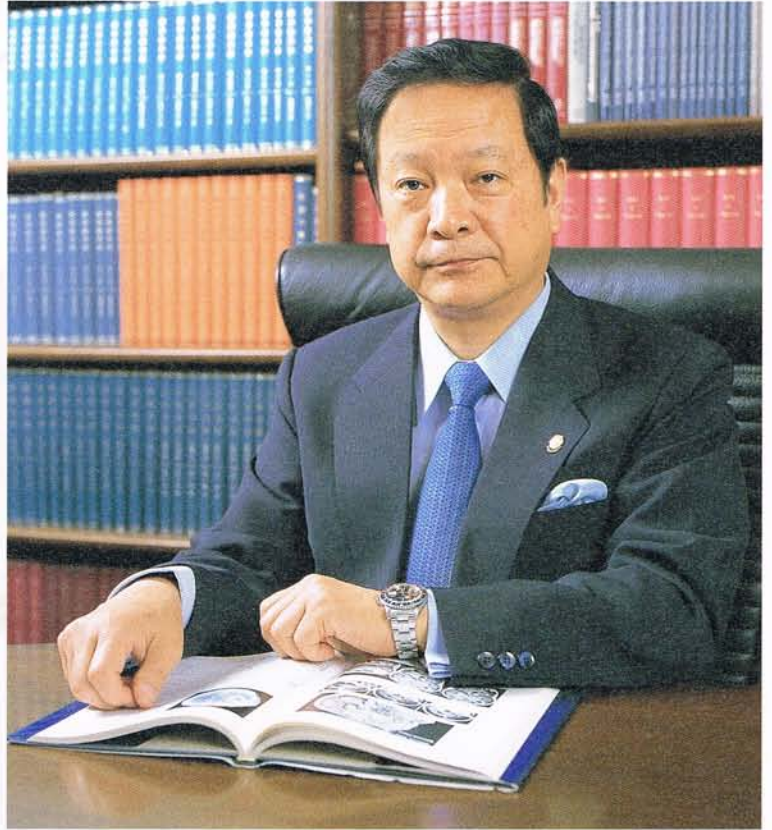
Chubu Medical Center for  
Prolonged Traumatic Brain Dysfunction





**Love**  
**Enthusiasm**  
**Science**





## ご挨拶

今、自動車がない世の中を考えたとなると世界のすべての社会が機能停止してしまうことでしょう。それほどまでに、私たちの生活に必須の自動車も、時には悪魔となり私たちの家庭を破壊し、不幸のどん底に陥れる凶器となります。

当療護センターは、不運にもその生活に欠かせない自動車により脳損傷を受け、重度の後遺障害が残り、治療看護が必要な方々に脳のリハビリテーションを中心として最新の医学の情報を基に治療ケアにあたる施設です。

脳損傷による後遺障害はほかの臓器と違い、改善に長い時間がかかります。スタッフが家族と共に忍耐と愛情を持って取り組むことが大切です。私たちはあきらめずに希望を持って日々治療ケアにあたることを第一としております。

また、当センターでは 高度先進医療機器を用いて、脳障害の改善に関する探究を世界に先駆けて行う研究機関としても力を入れております。

こうした中で、少しでも多くの人々が脳損傷による後遺症から脱却することができるように、スタッフ一同、心を込めてケアに努めております。

〔運営受託病院〕社会医療法人厚生会 木沢記念病院  
理事長・病院長

**山田 實紘** *Jitsuhiro Yamada, M.D., Ph.D.*

昭和43年、日本大学医学部卒業。加茂医師会会長。オーストラリア・チャーチルススタート大学健康科学名誉博士。日本脳神経外科学会専門医（評議員）、日本脳卒中学会専門医。医学博士。



自動車事故による脳損傷で重度の後遺障害が残り、いわゆる「遷延性意識障害」となられた方を抱えた御家族の精神的、肉体的及び経済的な苦しみには極めて大きなものがあります。中部療護センターはこのような障害をお持ちの方の治療と看護、その御家族への支援を目的として、独立行政法人自動車事故対策機構により全国で4番目の療護センターとして平成13年7月に開設されました。

本センターには3つの大きな使命があります。第一は患者様の回復に向けた治療です。リハビリテーションを主体とした治療により、外部からの刺激に対し、患者様の反応が良好となり、「遷延性意識障害」から脱却できることを目指しています。本センターにおけるリハビリテーションの特徴は「五感刺激療法」と呼ばれ、理学療法、作業療法、言語・嚥下療法に加え音楽療法、水浴療法、バーチャルリアリティによる

視覚刺激、トランポリンを用いた運動刺激、鍼灸治療、アロマセラピーなどを取り入れることにより全身の感覚器を適切に刺激し「脳の目覚め」を促します。第二は、来るべき在宅療養への移行を円滑に行うための御家族の在宅療養へ向けての心の準備、医療知識・技術の習得、家屋の改築等への支援です。本センターにおける2年間という限られた入院期間を御家族には在宅療養へ向けての準備期間として使用していただければ幸いです。第三は臨床研究です。どのような脳の損傷が「遷延性意識障害」を引き起こしているのか、未だ良く解っていません。病態の科学的な解明が待たれます。本センターにはMRI、PETをはじめとした高度医療検査機器が設置されており、これらの機器を用いて「損傷された脳」に科学のメスを入れ、そこから得られる情報を基に、患者様一人一人に合った治療・看護を目指しています。

本センターの理念は「愛情 (love) ・熱意 (enthusiasm) ・科学 (science) 」です。「遷延性意識障害の改善」というテーマは我々に課せられた極めて難しい大きな課題であり、現在も尚、治療効果の向上に向け、診療は試行錯誤の繰り返しです。我々は粘り強くこの難題に取り組むとともに、我々の持つ優れた専門知識・技術と愛情によって、質の高い医療・看護を提供できるよう努めています。本センターが一人でも多くの患者様や御家族の御役に立てれば、これ以上の喜びはありません。

#### センター長 篠田 淳

Jun Shinoda, M.D., Ph.D., F.R.C.S.Ed.

昭和56年、長崎大学医学部卒業。岐阜大学大学院医学研究科外科学専攻博士課程修了。英国Edinburgh大学留学。平成13年、岐阜大学医学部脳神経外科助教授。平成16年から中部療護センター長。岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻神経統御学講座脳病態解析学分野教授(客員)。木沢記念病院副院長。日本脳神経外科学会専門医(評議員)、日本意識障害学会理事、英国王立外科協会(Edinburgh)特別会員。医学博士。



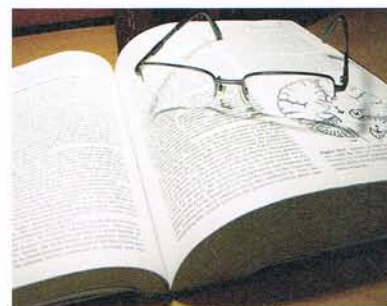


岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻神経統御学講座脳病態解析学分野(連携)

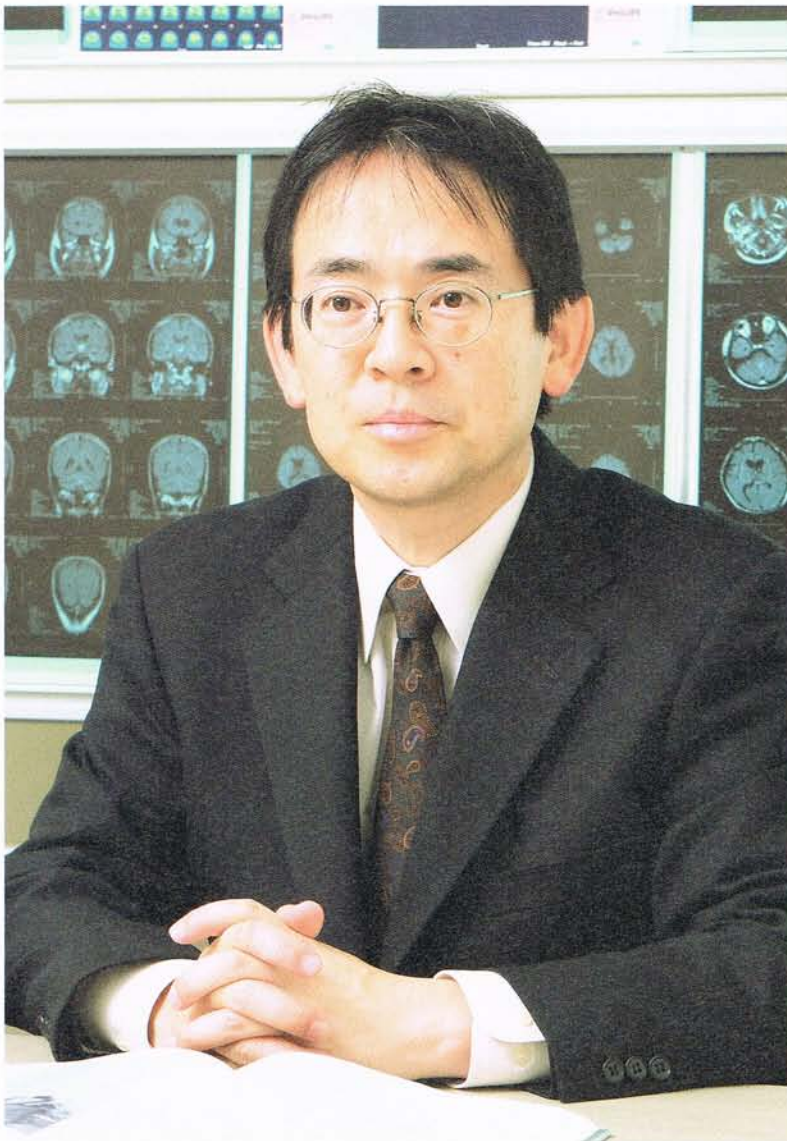
Department of Clinical Brain Sciences, Gifu University Graduate School of Medicine

交通事故による脳損傷に起因する遷延性意識障害をはじめとする各種脳疾患の病態解析、診断、治療を目的とした研究領域において、国立大学法人岐阜大学、独立行政法人自動車事故対策機構、社会医療法人厚生会木沢記念病院はそれぞれが有する人材、機器、手法を有機的に融合させ国際的に先導できる学術的分野の開発を目指し、上記連携大学院が中部療護センターに設置されました。医師を含めた医療関係者を対象に大学院生として医学博士取得を目的とした教育と研究(博士課程)を行ないます。

教官：教授(客員) 篠田 淳(中部療護センター センター長)  
准教授(客員) 浅野好孝(中部療護センター 脳神経外科部長)



## Question：中部療護センターの診療方針は？



**Answer：** 従来、日本の医療は西洋近代医学の流れを汲み、人間に対する病気を征服すべき対象とみなし、臓器別・疾患別医療を展開してきました。ところが21世紀になり、このような方針だけでは医療を受ける皆さんが「救われない」という近代医療のひずみが問題になってきました。中部療護センターの診療部では、疾患に対する手術や投薬などの直接的な医療のみに注目するのではなく人を人として全体的にとらえて医療技術を超えた心や家族を含めた生活環境をも考慮してコンディションの改善を図る医療を心がけています。意識や認知機能の改善を図る「脳リハビリテーション」は、従来は看護・理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法等による経験的な積み上げにより成り立ち、そして、これらのそれぞれの分野のプロフェッショナルが縦割りでの脳リハビリテーションにあたってきました。現在、中部療護センターでは高度先進機器のMRIやPET等の脳機能測定による個々の患者さんに特有な脳機能の情報を正確に評価し、カンファランス等で議論することにより、その情報をスタッフ全員が共有し、各分野が有機的に連携をとりあうことによるテーラーメイドの脳リハビリテーションを目指しています。

部長

**浅野好孝** Yoshitaka Asano, M.D., D.M.Sc.

昭和61年、岐阜大学医学部卒業。平成7年4月、岐阜大学医学部附属病院助手（脳神経外科）。平成10年4月、土岐市立総合病院脳神経外科部長。岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻神経統御学講座脳病態解析学分野准教授（客員）。日本脳神経外科学会専門医（評議員）、日本脳卒中学会専門医。医学博士。





医師  
三輪和弘 *Kazuhiro Miwa, M.D., Ph.D.*

平成7年、岐阜大学医学部卒業。岐阜大学大学院医学研究科外科学専攻博士課程修了。日本脳神経外科学会専門医（評議員）、日本脳腫瘍学会、日本脳腫瘍病理学会、日本脳腫瘍の外科学会会員。医学博士。日本がん治療認定医機構がん治療認定医。



医師  
竹中俊介 *Shunsuke Takenaka, M.D.*

平成13年、岐阜大学医学部卒業。日本脳神経外科学会専門医（評議員）。



医師  
秋 達樹 *Tatsuki Aki, M.D.*

平成14年、岐阜大学医学部卒業。日本脳神経外科学会専門医（評議員）。

## Question : 中部療護センターで提供している看護は？



**Answer :** 中部療護センターでは、固定チーム継続受け持ち制をとり、入院から退院まで受け持ち看護師が責任をもって看護にあたらせていただきます。病室はオープンフロアになっており、患者様が見渡せることで小さな変化も見逃すことなく、きめ細やかな看護が提供できるようになっています。また、日常での変化を大切に、朝、夕2回の着替えや週3回の入浴を、年間を通しては季節ごとの行事を開催し、本人はもちろんのご家族にも参加していただいています。また、2年間という長期の入院の間に、介護の技術提供を行い、ご家族が自信をもって在宅介護ができるようお手伝いをさせていただきます。

## [看護サイドで提供している脳リハビリ]

**嗅覚刺激 :** 入浴時のアロマトリートメントや本人の好きな食べ物の香りをかいていただきます。

**視覚刺激 :** 本人の好きだったTV番組や家族・友だちからのビデオレターなどを見ていただきます。

**聴覚刺激 :** 本人の好きだったCDをボディソニックやトランポリン時に流し、リラクゼーションを図っています。

**味覚刺激 :** アイス綿棒にいろいろな味をつけ口腔内の刺激をしたり、飴やガムでかむ練習や好きだったお酒の手作りゼリーを食べていただくことから食事の訓練を開始していきます。

**体感刺激 :** トランポリンやバーチャルリアリティ、端座位、ボディボールを使用し身体の感覚刺激を行っていきます。

## 看護部長

**石山光枝** Mitsue Ishiyama, R.N., M.Edu. (写真上)

岐阜大学病院看護師長を経て、中部療護センター開設に伴い副看護部長に就任、平成16年から看護部長、認定看護管理者、日本脳神経看護研究会理事長、東海脳神経看護研究会会長。

## 副看護部長

**遠山香織** Kaori Tooyama, R.N., B.A. (写真下)

日本脳神経看護研究会評議員、意識障害治療学会員。平成19年、中部療護センター看護部長。



看護部主任  
大西弘子 [Aチーム]  
Hiroko Ohnishi, R.N.



看護部主任  
大脇小幸 [Bチーム]  
Koyuki Ohwaki, R.N.



看護部主任  
田中秀美 [Cチーム]  
Hidemi Tanaka, R.N.



E



F



G



H



I



A

- A 病室
- B 嚥下訓練
- C 座ろくくん
- D 患者家族相談室
- E 口腔ケア
- F トランボリン治療
- G ボディソニック治療
- H 水浴療法
- I アニマルセラピー
- J バーチャルリアリティ療法



B



C



D



J

Question : 診療機材は充実していますか？



医療技術部 部長

福山誠介 Seisuke Fukuyama, R.T., B.A.

日本核医学技術学会東海地方部会副会長、岐阜県核医学談話会代表世話人。日本放射線技師会、日本核医学会、日本核医学技術学会、日本意識障害学会、日本放射線技術学会、日本神経学会、日本公衆安全学会会員。

**Answer :** 当センターの特徴として、脳の状態を測定する先進の機器が配備されていることがあげられます。

**ポジトロン断層撮影 (Positron Emission Tomography) 装置**

この装置は、英語標記の頭文字をとってPET (ペット) と呼ばれています。PET検査では、放射性薬剤を体内に投与し、その分布状態を測定することにより脳の状態 (脳血流、脳の糖代謝など) を調べます。その外にも、がんや心臓疾患の検査にも用いられる装置です。

**磁気共鳴断層撮影装置 (Magnetic Resonance System)**

MRと呼ばれています。MRIは、強い磁石と特殊な電波の力により人体内部の構造を鮮明に見ることができる医用画像診断装置です。この装置を用いてMRI (脳の表面や断面の画像化)、MRA (脳血管の画像化) はもとよりMRCP (胆管膵管撮像)、トラクトグラフィ (大脳白質の神経線維路の描出)、MRS (病変部位の成分解析) といった検査をおこなっています。

**単光子放射線コンピュータ断層撮影 (Single Photon Emission Computed Tomography) 装置**

一般的には、SPECTと呼ばれる検査機器です。この機器では、主に脳血流の測定をおこないます。SPECTもPETと同様に放射性薬剤を体内に投与して調べる検査機器ですが、どちらも放射線による人体への影響はまったく心配りません。

**Cアーム型X線テレビ装置**

嚥下障害を客観的に評価する手段として嚥下造影 (Video fluorography) 検査を実施する際に使用する装置です。

**高気圧酸素治療装置**

本装置は、高気圧の酸素を体に十分に行渡らせることで脳障害の治療に効果があります。

**脳波検査装置**

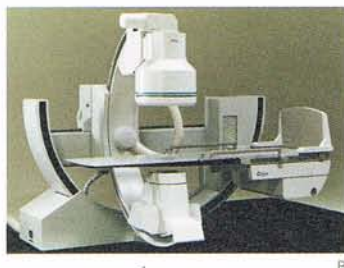
脳波検査には、専属の臨床検査技師が携わっています。

**回診用X線撮影装置**

ベッドサイドでX線撮影ができるようにしています。



A



B

A 高気圧酸素治療室

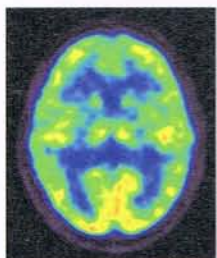
B X線検査装置

# PET

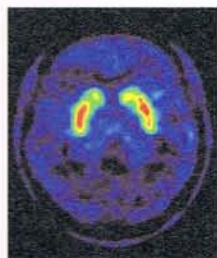
Positron Emission Tomography

## ポジトロン断層撮影装置

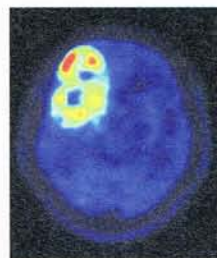
患者様に投与された放射性化合物の微量成分の反応を検出し、血流量や糖代謝の状態を評価することにより、生体内の生理的・生化学的な情報の画像化を行い、形態的異常のみならず形態的变化を伴わない部位も含めて機能的異常を検出します。



<sup>18</sup>F-FDG PET



<sup>18</sup>F-dopa PET



<sup>11</sup>C-Methionine PET

医療技術部 主任(薬剤師)

横山靖司 *Seiji Yokoyama, B.Pharm.*

日本医療薬学会、日本病院薬剤師会会員。岐阜県病院薬剤師会会員。





# MR

Magnetic Resonance System

## 磁気共鳴断層撮影装置

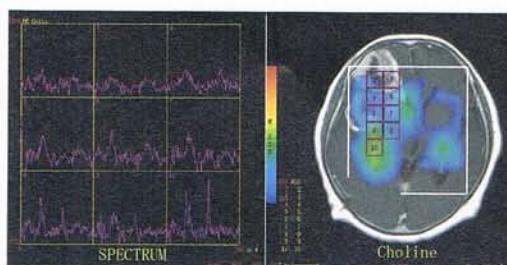
強い磁気を当てて身体の電気信号を検出し、体内の組織、血管、血流を映像化する装置。停止あるいは残存する脳機能の部位を測定することにより、必要な治療・リハビリの方針を確立します。



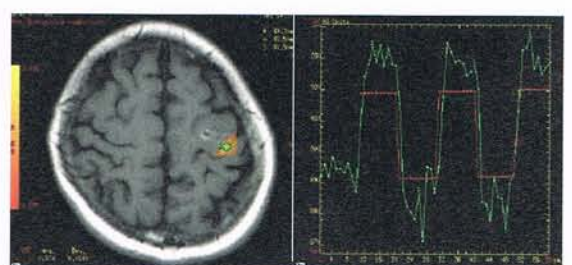
MRI操作室



トラクトグラフィー



MRS



ファンクショナルMRI (fMRI)

# SPECT

Single Photon Emission Computed Tomography

単光子放射線コンピュータ断層撮影装置

放射性同位元素を投与しγ線を検出することにより、  
脳血流等の機能的異常を検査します。



SPECT操作室



# 神経生理学的検査

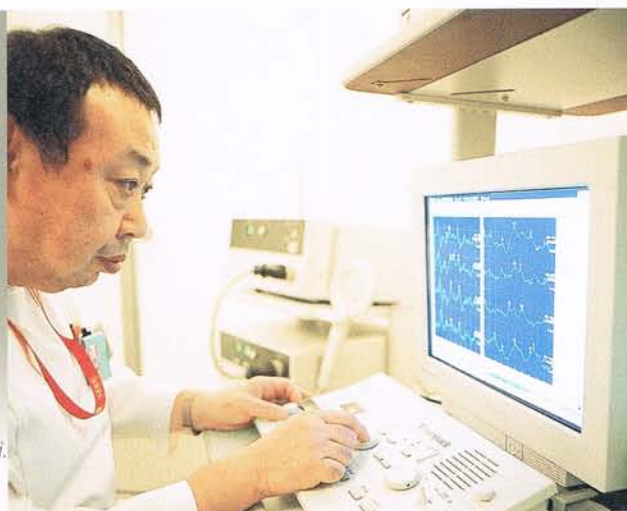
Neuro-physiological Examination

- ・脳波
- ・筋電図
- ・聴覚誘発電位
- ・体性感覚誘発電位
- ・視覚誘発電位

医療技術部 主任(臨床検査技師)

西山紀郎 *Norio Nishiyama, Med.T., B.H.Sci.*

日本臨床衛生検査技師会会員。岐阜県臨床衛生検査技師会常務理事。  
日本臨床検査医学会東海・北陸支部会員。



## Question : リハビリではどんなことをするのですか？



**Answer :** 理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法の専門療法士を配置しています。

**理学療法**では、患者様の筋肉や関節の状態を把握し、異常な筋緊張を改善し関節の変形を防ぎながら、まず、「寝返り」「起き上がり」といった基本動作の獲得を目指します。さらに、「座る」「立つ」という姿勢の保持や「車椅子の自力駆動」「歩く」といった自力移動手段の獲得を目指した援助を行っています。

**言語聴覚療法**では、飲み込みのリハビリ(嚥下リハビリ)に力を入れています。食べられるようになると随意行為も増え意識障害も回復してきます。そして意思表示の手がかり(YES時に瞬きや指を動かすなど)が芽生え、それを他者とのコミュニケーション方法として定着できるように援助を行います。また、可能な方には、瞬き等だけでなく、発声、発語、または文字盤などが使えるように、発声・発語練習、注意集中、注意持続、新しいことの記憶や考えを言葉にまとめる(思考の言語化)などの練習(認知・コミュニケーション訓練)も行っています。

**作業療法**では、「食べる」「服を着る・脱ぐ」などの日常生活動作を再獲得することを目標としています。この目標を実現するために作業活動を媒介とした上肢(腕や手)の機能訓練や精神機能面への働きかけを行います。また、残された機能を最大限に活用するために自助具、装具、福祉用具などの利用法を検討し、介護者に対しても介助方法などのアドバイスを行っています。

**音楽療法**では、患者様の目覚めや能動性、注意力や記憶力などの改善を主な目的としています。はじめに好みの音楽、楽器やリズム運動などを用いて諸感覚を刺激し、それに対する関心を引き出します。次に今ある能力を用いて自分から「聴く」「見る」「触る」「動かす」などの行為ができるように援助をしています。さらに、楽器の演奏や歌唱といった音楽活動を用いて、指示に合わせてたり新しく名前を覚えたりなど、注意や記憶の訓練を行っています。

リハビリテーション科 課長 (理学療法士)

**榎林 優** Masaru Makibayashi, P.T., A.A.S. (写真上)

日本理学療法士協会代議員、岐阜県理学療法士会理事・副会長、日本意識障害学会会員、中部学院大学短期大学部非常勤講師、介護支援専門員、日本心臓リハビリテーション学会会員。

リハビリテーション科 課長 (言語聴覚士)

**豊島義哉** Yoshiya Toyoshima, S.T., M.A. (写真下)

日本言語聴覚士協会評議員、岐阜県嚥下障害研究会会長、日本意識障害学会、日本高次脳機能障害学会、日本音声言語医学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会会員、朝日大学付属病院非常勤講師、岐阜大学大学院医学研究科(脳神経外科学)在学中。修士(学術)。



## 理学療法

PHYSICAL THERAPY

- A 理学療法室
- B プラットホーム上関節可動域訓練
- C 平行棒内立位・歩行訓練
- D 起立台による立位訓練
- E プラットホームからの起立訓練



## 言語聴覚療法

SPEECH THERAPY

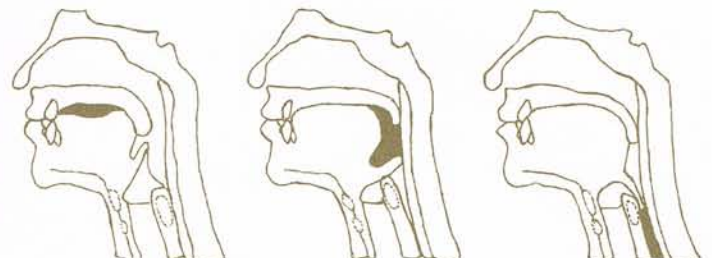
- A 飲み込みの検査 (嚥下造影検査)
- B 意思表示を確立していく練習 (2者択一)
- C 発声困難な方のコミュニケーションの練習



嚥下造影検査



矢印は  
液体が誤って気管へ  
入っていく様子 (誤嚥)



## 作業療法 OCCUPATIONAL THERAPY



リハビリテーション科 主任  
作業療法士  
**和田哲也** *Tetsuya Wada, O.T., M.H.Sci.*  
日本作業療法士協会会員。中部学院短期大学非常勤講師。介護支援専門員。

- A 作業療法室
- B 認知機能訓練
- C 食事動作訓練
- D 更衣動作訓練
- E 上肢機能訓練
- F 意識に訴えかける作業活動
- G 器具療法



## 音楽療法

MUSIC THERAPY



リハビリテーション科 主任  
音楽療法士  
奥村由香 Yuka Okumura, Mus.T., A.A.S.

日本音楽療法学会評議員。同学会認定音楽療法士。日本意識障害学会会員。他

A 楽器を用いた感覚刺激と「聴く」「見る」「触る」などの行為の援助  
B 合奏（指示に合わせて音を出すこと）を用いた注意訓練

## 鍼灸療法

ACUPUNCTURE

脳機能の賦活や全身のリラクゼーションを目的として手足や顔のいろいろな経穴（ツボ）に鍼（ハリ）治療を行います。



鍼灸治療は1200年以上も前から日本に存在する伝統的医療の一つです。鍼灸刺激には強い鎮痛効果が証明されていますが、近年、脳機能の賦活にも関与していると報告されています。私達のチームでは、現代医療と伝統医療を組み合わせ合わせた統合医療を患者様に提供したいと考えています。

鍼灸師  
松本 淳 Jun Matsumoto, L.Ac., M.A., M.H.Sci.

明治鍼灸大学（現 明治国際医療大学）鍼灸学部卒。岐阜大学大学院医学系研究科 循環病態学呼吸病態学 第2内科非常勤講師。明治鍼灸大学大学院博士前期課程修了。明治鍼灸大学研究生修了。日本意識障害学会、日本東洋医学会、全日本鍼灸学会会員（認定登録者）。



## アロマトリートメント

AROMA TREATMENT

患者様の状態にあわせて精油の調合を行う「メディカルアロマ」を行っています。植物の持つ有効成分を利用して、香りによる脳への直接的な働きかけと、トリートメントによる皮膚から筋肉および身体内部への働きかけを行っています。

## 歯科

DENTISTRY

歯科医師による虫歯の治療を行います。

2006年

国際学会

1. Okumura A, Nakayama N, Shinoda J, Iwama T: Discrepancy between lesion distributions on methionine PET and MR images in patients with glioblastoma multiforme. The 6th Asia Conference of Neurological Surgeons. Mumbai, 2006.1.26-29
2. Yasokawa Y, Nakayama N, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Evaluation of corticospinal tract damage in patients with chronic severe diffuse axonal injury using diffusion tensor magnetic resonance imaging and motor evoked potential. The 6th Asia Conference of Neurological Surgeons. Mumbai, 2006.1.26-29
3. Okumura A: The clinical utility of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized PET to evaluate memory and cognitive impairment. Cooperative Joint Conference on Neuroscience in Gifu. Gifu, 2006.3.31-4.2
4. Ohira H, Ichikawa N, Isowa T, Nomura M, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: To Learn is somatic: Brain-body association during stochastic learning. The 12th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. Florence, 2006.6.11-15
5. Kanazawa T, Konagaya T, Imamura H, Kanayama N, Ohira H, Shinoda J, Fukuyama S, Kaneko H: Effect of psychological stress on rectal hyperalgesia and brain blood flow in patients with irritable bowel syndrome. The 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR. Osaka, 2006.7.7-9
6. Matsuo M, Shinoda J, Yamamoto N, Asano H, Miwa K, Hoshi H, Shibamoto Y, Sumida I, Takahashi Y, Yamashita: Intensity-modulated Tomotherapy with stereotactic radiosurgery for brain tumors: validation of a value of 11C-methionine-PET images in treatment planning. The 1st Hokkaido International Crosscutting Symposium, Molecular Bio-imaging and 4D Image-guided Radiotherapy. Sapporo, 2006.7.14-16
7. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The evidence of neural network disruption in mild cognitive impairment. -MR diffusion tensor imaging study-. The 10th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders. Madrid, 2006.7.15-20
8. Shinoda J, Nakayama N, Miwa K, Okumura A, Yano H, Iwama T, Yamada J: Time course and sign of malignant transformation of diffuse astrocytoma as seen by PET. The 7th Congress of European Association for Neurooncology. Wien, 2006.9.14-17
9. Yasokawa Y, Yano H, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Magnetic resonance diffusion tensor imaging and intraoperative motor evoked potential for brain tumor surgery near the corticospinal tract. The 7th Congress of European Association for Neurooncology. Wien, 2006.9.14-17
10. Yano H, Ohe N, Nakayama N, Miwa K, Yasokawa Y, Shinoda J, Iwama T: Efficacy of gross total resection, external beam radiation therapy and stereotactic linac radiosurgery in patients with glioblastoma multiforme. The 7th Congress of European Association for Neurooncology. Wien, 2006.9.14-17
11. Okumura A, Shinoda J, Yasokawa Y, Hirata N: Diffusion tensor imaging to evaluate patients in traumatic brain injury without macroscopic lesions. International Session in the 34th Annual Meeting of the Japanese Society for Magnetic Resonance in Medicine. Tsukuba, 2006.9.14-16
12. Matsuo M, Shinoda J, Hayashi S, Maeda S, Tanaka O, Hoshi H, Shibamoto Y, Yamamoto N, Asano H, Takahashi Y, Miwa K, Sumida I, Yamashita T, Saji S: Intensity-modulated Tomotherapy with stereotactic radiosurgery for brain tumors: validation of a supplementary value of 11C-methionine-PET images in treatment planning. The 7th Congress of Asian Clinical Oncology Society. Beijing, 2006.9.14-18
13. Okumura A, Shinoda J: The evidence of neural network disruption in mild cognitive impairment-MR diffusion tensor imaging study. International Conference of Geriatric Psychoneuropharmacology (ICGP 2006). Hiroshima, 2006.10.4-5
14. Miwa K, Shinoda J, Yokoyama K, Ueda T, Yamada J, Yano H, Iwama T, Matsuo M: Helical Tomotherapy planning of malignant gliomas using 11C-methionine PET/MRI image fusion. The 25th Annual Meeting of European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO 25). Leipzig, 2006.10.8-12
15. Matsuo M, Shinoda J, Miwa K, Yokoyama K, Yamamoto N, Asano H, Hayashi S, Maeda S, Tanaka O, Shibamoto Y, Hoshi H: Intensity-modulated Tomotherapy with stereotactic radiosurgery for brain tumors: validation of a supplementary value of 11C-methionine-PET images in treatment planning. The 25th Annual Meeting of European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO 25). Leipzig, 2006.10.8-12
16. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Appraisal about controllability of acute stressor and brain-cardiac-immune association. The 8th International Congress of Neuroimmunology. Nagoya, 2006.10.15-19

17. Kanazawa T, Konagaya T, Imamura H, Kanayama N, Ohira H, Shinoda J, Fukuyama S, Kaneko H, Kakumu S: Effect of psychological stress on rectal hyperalgesia and brain blood flow in patients with irritable bowel syndrome. The 14th United European Gastroenterology Week. Berlin, 2006.10.21-25
18. Okumura A, Nakayama N, Kato T, Shinoda J: Relationship between regional cerebral metabolism and cognitive disturbance in patients with chronic-stage diffuse axonal injury: A fluorine-18-fluorodeoxyglucose positron emission tomography (FDG-PET) study. The 9th Congress of World Federation of Nuclear Medicine & Biology. Seoul, 2006.10.22-27
19. Kato T, Nakayama N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J: Correlation of regional cerebral metabolism and general intelligence following traumatic brain injury. The 9th Congress of World Federation of Nuclear Medicine & Biology. Seoul, 2006.10.22-27
20. Ohira H, Ichikawa N, Isowa T, Nomura M, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Brain activity during reward learning: Simultaneous recording of PET and peripheral physiological activity. The 46th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research, Vancouver, 2006.10.25-29
21. Matsuo M, Shinoda J, Hayashi S, Maeda S, Tanaka O, Hoshi H, Shibamoto Y, Yamamoto N, Asano H, Takahashi Y, Miwa K, Yokoyama K: Intensity-modulated Tomotherapy with stereotactic radiosurgery for brain tumors: validation of a supplementary value of 11C-methionine-PET images in treatment planning. The 48th Annual Meeting of American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). Philadelphia, 2006.11.5-9

著書・論文

1. Nakayama N, Okumura A, Shinoda J, Yasokawa Y, Miwa K, Yoshimura S, Iwama T: Evidence for white matter disruption in traumatic brain injury without macroscopic lesions. J Neurol Neurosurg Psychiatry 77: 850-855, 2006
2. Nakayama N, Okumura A, Shinoda J, Nakashima T, Iwama T: Relationship between regional cerebral metabolism and consciousness disturbance in traumatic diffuse brain injury without large focal lesions: an FDG-PET study with statistical parametric mapping analysis. J Neurol Neurosurg Psychiatry 77: 856-862, 2006
3. 奥村 歩, 篠田 淳, 山田實紘, 岩間 亨: MRI拡散テンソル法を用いた統計学的画像診断システムの開発と「高次脳機能障害」に対する臨床応用. 岐阜県脳医学研究会紀要 2: 31-35, 2006
4. 加藤貴之, 八十川雄樹, 奥村 歩, 篠田 淳, 中山則之, 岩間 亨: 頭部外傷慢性期における脳糖代謝の統計学的画像解析. 神経外傷 29: 15-19, 2006

2007年

国際学会

1. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of automated diagnosis system of Alzheimer's disease. The 8th International Conference of Alzheimer's and Parkinson's Diseases. Salzburg, 2007.3.14-18
2. Ohira H, Matsunaga M, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Serotonin transporter gene polymorphism can explain brain and physiological reactivity to acute stress. The 13th Annual Meeting on Human Brain Mapping. Chicago, 2007.6.10-14
3. Miwa K, Shinoda J, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Matsuo M, Yano H, Iwama T: Simultaneous integrated boost for glioblastoma multiforme by helical Tomotherapy using 11C-methionine PET. The 8th International Stereotactic Radiosurgery Society Congress. San Francisco, 2007.6.23-27
4. Matsuo M, Shinoda J, Miwa K, Yamamoto N, Asano H, Furukawa S, Yamada J: Intensity-modulated Tomotherapy with stereotactic radiosurgery for brain metastases: The value of 11C-methionine-PET images in treatment planning. The 8th International Stereotactic Radiosurgery Society Congress. San Francisco, 2007.6.23-27
5. Kato T, Oka N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J: Correlation of metabolic activity using 11C-methionine PET and initial symptoms in primary insular glioma. The 27th International Epilepsy Congress. Singapore, 2007.7.8-12
6. Kaneko H, Kanazawa T, Konagaya T, Imamura H, Ohira H, Kanayama N, Matsunaga M, Shinoda J, Fukuyama S: Effect of rectal distension and psychological stress on pain recognition and brain blood flow in patients with irritable bowel syndrome (IBS). The 4th Science and Research Symposium on Gastrointestinal Motility and Functional Gastrointestinal Disorders, Basic to Clinical. Nagoya, 2007.8

7. Okumura Y, Okumura A, Toyoshima T, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance using ECD-SPECT with brain easy analysis tool (BEAT). The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
8. Toyoshima Y, Okumura A, Shinoda J, Yamada J, Iwama T: The clinical utility of videofluoroscopic examination for the swallowing rehabilitation of severe traumatic brain injury. The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
9. Okumura A, Oka N, Kato T, Miwa K, Shinoda J, Yamada J: The clinical utility of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized PET to evaluate memory and cognitive impairment. The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
10. Oka N, Okumura A, Kato T, Miwa K, Shinoda J, Yamada J: Helical Tomotherapy planned with Methionine PET for glioblastoma multiforme. The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
11. Kasuya Y, Okumura A, Oka N, Shinoda J, Yamada J: The detection of abnormal neural network after traumatic brain injury using MR diffusion tensor imaging. The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
12. Suzuki M, Matsumoto J, Yasokawa YT, Oka N, Nishiyama N, Okumura R, Fukuyama S, Kato T, Kanematsu Y, Okumura A, Shinoda J: Acupuncture as a possible treatment for patients in the vegetative state. The 2nd Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5th Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
13. Matsuo M, Miwa K, Shinoda J, Yamamoto N, Asano H, Furukawa S, Takahashi Y, Sumida I, Yamashita T: 11C-Methionine-PET based substrate for target definition in stereotactic radiosurgery of brain metastases. The 49th Annual Meeting of the American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). Los Angeles, 2007.10.28-11.1
14. Miwa K, Oka N, Kato T, Okumura A, Shinoda J, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Matsuo M, Yano H, Iwama T: Simultaneous integrated boost for glioblastoma multiforme by Helical Tomotherapy system using 11C-methionine PET. The 5th Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology. Istanbul, 2007.11.2-4
15. Okumura A, Miwa K, Oka N, Kato T, Shinoda J, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Matsuo M, Yano H, Iwama T: Stereotactic radiosurgery by Helical Tomotherapy System for metastatic brain tumors using 11C-methionine PET. The 5th Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology. Istanbul, 2007.11.2-4
16. Kato T, Oka N, Miwa K, Okumura A, Shinoda J, Yamada J: Correlation of metabolic activity using 11C-methionine PET and initial symptoms in primary insular glioma. The 5th Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology. Istanbul, 2007.11.2-4
17. Shinoda J (Luncheon Seminar): The role of positron emission tomography in clinical strategy for treating gliomas. The 12th Asian Australasian Congress of Neurosurgical Surgeons / World Federation of Neurosurgical Societies, the 13th Interim Meeting. Nagoya, 2007.11.18-21
18. Shinoda J (Workshop): Extent of glioblastoma invasion. The 12th Asian Australasian Congress of Neurosurgical Surgeons / World Federation of Neurosurgical Societies, the 13th Interim Meeting. Nagoya, 2007.11.18-21

## 著書・論文

1. Yasokawa Y, Shinoda J, Okumura A, Nakayama N, Miwa K, Iwama T: Correlation between diffusion-Tensor magnetic resonance imaging and motor-evoked potential in chronic severe diffuse axonal injury. *J Neurotrauma* 24: 163-173, 2007
2. Nakashima T, Nakayama N, Miwa K, Okumura A, Soeda A, Iwama T: Focal brain glucose hypometabolism in patients with neuropsychologic deficits after diffuse axonal injury. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 28: 236-242, 2007
3. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of automated diagnosis system of Alzheimer's disease. *Neurodegenerative Disease*: 4 (Suppl), 307, 2007
4. Kato T, Nakayama N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Statistical image analysis of cerebral glucose metabolism in patients with cognitive impairment following diffuse traumatic brain injury. *J Neurotrauma* 24: 919-926, 2007
5. Miwa K, Shinoda J, Yano H, Iwama T: Relatively decreased 11C-methionine uptake within the anaplastic component of a mixed grade of oligodendroglioma: a case study. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 28: 2005-2007, 2007
6. Hashimoto K, Okumura A, Shinoda J, Abo M, Nakamura T: Tensor magnetic resonance imaging in a case of mild traumatic brain injury with lowered verbal intelligence quotient. *J Rehabil Med* 39: 418-420, 2007
7. Matsuo M, Shinoda J, Miwa K, Yano H, Iwama T, Hayashi S, Okada S, Tanaka O, Hoshi H: Stereotactic radiosurgery for patients with newly diagnosed glioblastoma multiforme (GBM): comparison with intra-operative radiotherapy and evaluation of prognostic factors. *J Radiotherapy in Practice* 6: 143-152, 2007
8. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Imaging brain and immune association accompanying cognitive appraisal of an acute stressor. *Neuroimage* 39: 500-514, 2007
9. 奥村 歩: ボケない技術「もの忘れ外来」の現場から。世界文化社, 東京, 2007

## 2008年

### 国際学会

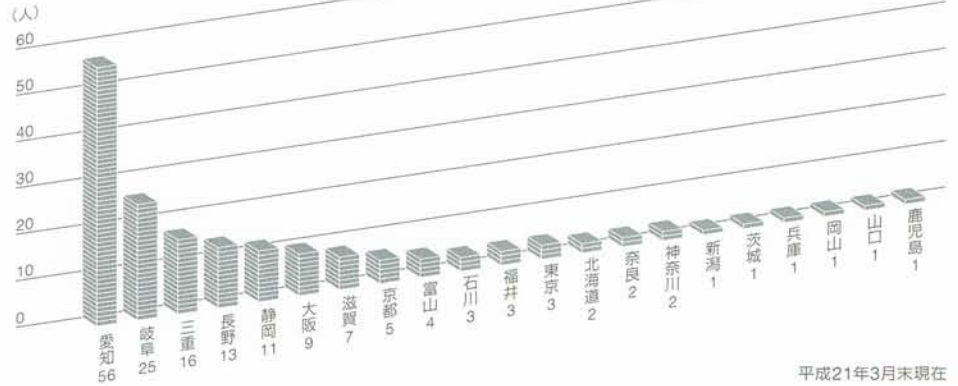
1. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance. The 1st Asian Oceania Conference of Physical and Rehabilitation Medicine. Nanjing, 2008.5.16-19
2. Miwa K, Takenaka S, Shinoda J, Matsuo M, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Yano H, Iwama T: Simultaneous integrated boost technique by helical tomotherapy for the treatment of glioblastoma multiforme with 11C-methionine PET. The 8th Meeting of the European Association of Neurooncology. Barcelona, 2008.9.12-14
3. Takenaka S, Miwa K, Shinoda J, Matsuo M, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Yano H, Iwama T: Stereotactic radiosurgery by helical tomotherapy system for metastatic brain tumors using 11C-methionine PET. The 8th Meeting of the European Association of Neurooncology. Barcelona, 2008.9.12-14
4. Matsuo M, Miwa K, Shinoda J, Yamamoto N, Asano H, Fukuyama S: Target definition for glioblastoma multiforme in radiation therapy planning by two differential uptake values on C11-methionine PET. The 50th Annual Meeting of the American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). Boston, 2008.9.21-25
5. Miwa K, Matsuo M, Takenaka S, Shinoda J, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Yano H, Iwama T: Early 11C-methionine PET changes for monitoring therapeutic response following simultaneous integrated boost technique by helical tomotherapy with chemotherapy for glioblastoma multiforme. The 50th Annual Meeting of the American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). Boston, 2008.9.21-25
6. Shinoda J (Workshop): Neuroimaging studies and neurorehabilitation at the Chubu Medical Center for Prolonged Traumatic Brain Dysfunction. International Conference of Multidisciplinary Neurotraumatology. Nagoya, 2008.10.30

### 著書・論文

1. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: Overview of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized FDG-PET for diffuse axonal injury patients with cognitive impairments. Novel Trends in Brain Science. Brain Imaging, Learning and Memory, Stress and Fear, and Pain. In Onozuka M, Yen CT (ed), Springer, Tokyo, 2008, pp25-35
2. Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Miyakoshi M, Kanayama N, Murakami H, Sato S, Konagaya T, Nogimori T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Ohira H: Associations among central nervous, endocrine, and immune activities when positive emotions are elicited by looking at a favorite person. *Brain Behav Immun* 22: 408-417, 2008
3. Miwa K, Matsuo M, Shinoda J, Oka N, Kato T, Okumura A, Ueda T, Yokoyama K, Yamada J, Yano H, Yoshimura S, Iwama T: Simultaneous integrated boost technique by helical tomotherapy for the treatment of glioblastoma multiforme with 11C-methionine PET: report of three cases. *J Neuro-oncol* 87: 333-339, 2008
4. Kato T, Shinoda J, Nakayama N, Miwa K, Okumura A, Yano H, Yoshimura S, Maruyama T, Murakami Y, Iwama T: Metabolic assessment of gliomas using carbon-11 methionine, fluorine-18 fluorodeoxyglucose, and carbon-11 choline positron-emission tomography. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 29: 1176-1182, 2008
5. Kato T, Shinoda J, Oka N, Miwa K, Nakayama N, Yano H, Maruyama T, Murakami Y, Iwama T: Analysis of 11C-methionine uptake in low grade gliomas and correlation with proliferative activity. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 29: 1867-1871, 2008
6. Yano H, Ohe N, Shinoda J, Yoshimura S, Iwama T: Immunohistochemical study concerning the origin of neurocytoma - A case report -. *Pathol Oncol Res* (in press)
7. 奥村 歩: 音楽で脳はここまで再生する 一脳の可塑性と認知音楽療法。人間と歴史社, 東京, 2008
8. 奥村 歩, 篠田 淳: FDG-PET. 意識障害の診断と治療 —reappraisal—. *Clinical Neuroscience* 26: 653-655, 2008
9. 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: 拡散テンソルMR画像を用いた高次脳機能障害の評価。意識障害の診断と治療 —reappraisal—. *Clinical Neuroscience* 26: 659-661, 2008
10. 松本 淳, 奥村 歩, 篠田 淳: 鍼治療。意識障害の診断と治療 —reappraisal—. *Clinical Neuroscience* 26: 676-677, 2008
11. 奥村由香, 奥村 歩, 岡 直樹, 豊島義哉, 篠田 淳: 交通事故の頭部外傷による脳機能障害に対する認知音楽療法。日本音楽療法学会誌 8 : 13-24, 2008
12. 篠田 淳: 平成19年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告。厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 -高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究-(H18-こころ一般-008)」平成19年度 総括・分担研究報告書, 2008, pp143-149

出身地別入院者数の推移

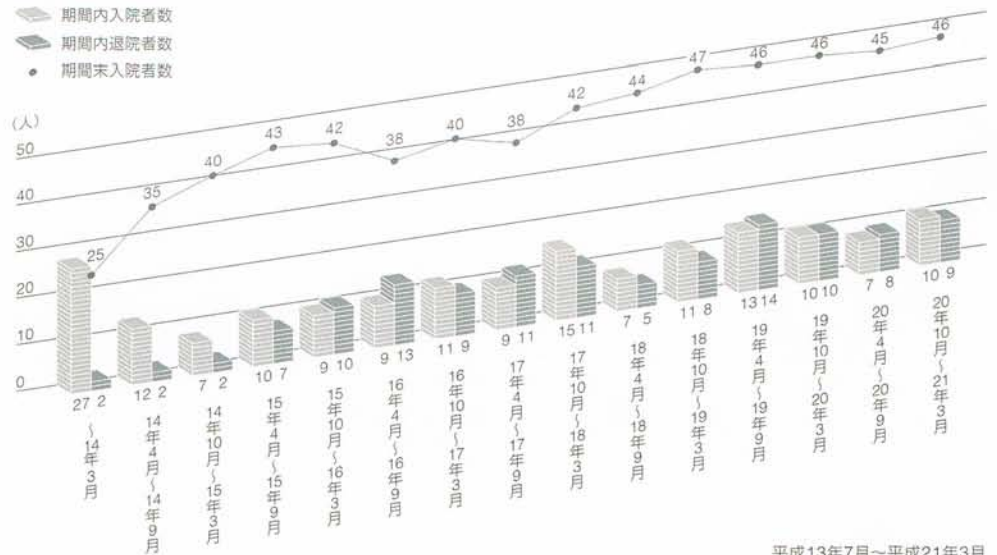
中部療護センター入院者の出身地は中部圏が中心となっておりますが、関東、中国地方からの入院受入れ実績もありますのでお問合せください。



平成21年3月末現在

入退院者の推移

平成15年度後半から17年度にかけては、開院直後に入院した方の退院などの影響もあり入退院が多くなりました。今後は、入院者の微増傾向が続き、満床に近い状況で推移をしていくものと考えております。

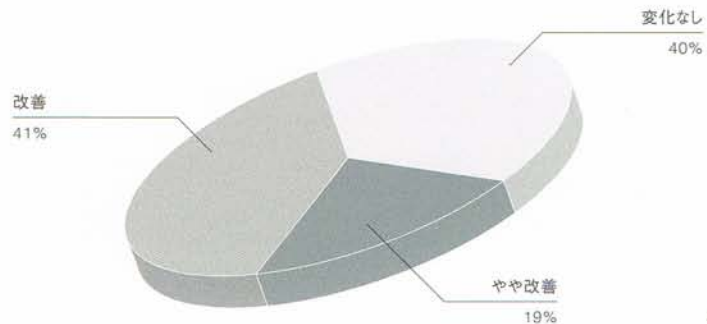


平成13年7月～平成21年3月

治療効果

平成17年6月1日から平成21年6月1日の間に退院された患者様(63名)の退院時の状態が入院時と比べてどのように変化をしたかを調べたものです。

(NASVA療護センター統一スコアに基づく評価)



平成21年6月現在

中部療護センターは、こんな施設です。



中部療護センターは、入院患者の社会復帰の可能性を追求しながら、適切な治療と看護を行うことを目的とした、世界でも類を見ない、脳損傷の重度後遺障害者専門病院です。

入院患者のわずかな意識の回復の兆しをもとらえ、効果的な治療および看護を行うため、病室の仕切りを最小限にした病棟ワンフロアシステムを取り入れ、集中的に観察できるようにしています。さらに、ベッドの間隔、訓練室、浴室などのスペースも十分に確保しています。

また、患者の回復に向けての環境づくりとして、季節や1日の移り変わりが感じられるように、大きな窓のそばに全てのベッド

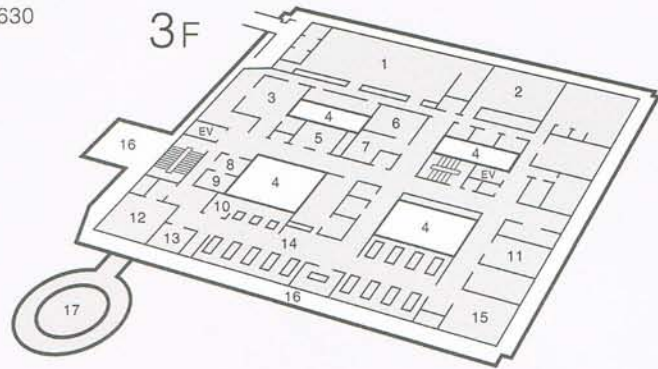
を配置するとともに、日光浴、緑地の散歩などが行えるように、サニーテラスや緑地が設けられています。

患者に対しよりよい診断と治療を行うため、最新・最高の医療機器ポジトロン断層撮影(Positron Emission Tomography)装置、磁気共鳴断層撮影装置(Magnetic Resonance System)を備えています。

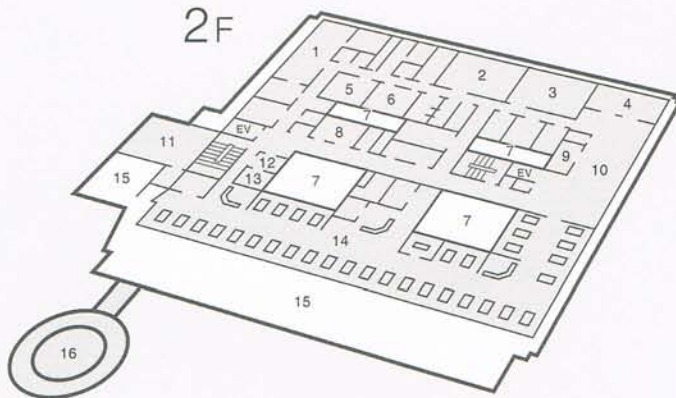
また、看護体制は、同じ看護師が一人の患者を継続して受け持つプライマリー・ナーシング方式を導入し、きめ細やかな看護を行っています。

# 施設概要

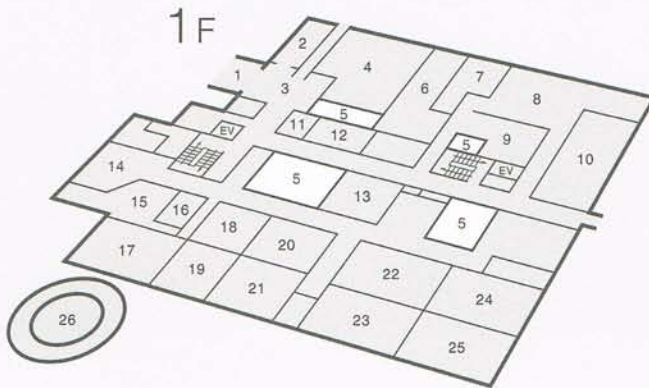
所在地：〒505-0034 岐阜県美濃加茂市古井町下古井630  
 敷地面積：8,080.63m<sup>2</sup> (2,448.67坪)  
 設置：独立行政法人 自動車事故対策機構  
 運営：社会医療法人厚生会 総合病院木沢記念病院  
 病床：完全看護 治療型 50床  
 診療科目：脳神経外科  
 建物：延床面積6,678m<sup>2</sup> (渡り廊下・車庫を含む)  
 鉄筋コンクリート造り 地上3建て



- 1 討議室
- 2 機械室
- 3 医局
- 4 光庭
- 5 女子・男子トイレ
- 6 浴室
- 7 感染症患者観察室
- 8 面会人更衣室
- 9 家族休憩室
- 10 患者家族相談室
- 11 音楽療法室
- 12 浴室
- 13 カンファレンス室
- 14 病室 (17床)
- 15 作業療法室
- 16 バルコニー
- 17 避難スロープ



- 1 事務室
- 2 データ処理保管室
- 3 機械室
- 4 言語・聴覚療法室
- 5 図書室
- 6 会議室
- 7 光庭
- 8 女子・男子トイレ
- 9 カンファレンス室
- 10 理学療法室
- 11 浴室
- 12 面会人更衣室
- 13 家族休憩室
- 14 病室 (33床)
- 15 バルコニー
- 16 避難スロープ



- 1 玄関
- 2 管理・受付
- 3 ホール
- 4 電気室
- 5 光庭
- 6 機械室
- 7 発電機室
- 8 中央材料室
- 9 洗濯室
- 10 厨房
- 11 待合室
- 12 女子・男子トイレ
- 13 水治療室
- 14 MRI検査室
- 15 CPU室・操作室
- 16 CT検査室
- 17 ヒロディー
- 18 X線検査室
- 19 カンファレンス室
- 20 高気圧酸素脳波治療室
- 21 空調機室
- 22 SPECT検査室
- 23 PET検査室
- 24 ホットラボ
- 25 サイクロترون本体室
- 26 避難スロープ



受付

ホール

調理室

洗濯室

滅菌室



# 事務部

事務部には、総務、経理事務を担当する庶務課と医療事務を担当する療護課があります。直接患者様の治療を担当する部署ではありませんが、患者様の回復を願う気持ちは、医療スタッフと変わりありません。

なお、医療ソーシャルワーカー（MSW）を配置し、患者ご家族様のご相談にも応じております。

## 庶務課



庶務課長  
西田忠昭



事務次長  
中島 勉

## 療護課



療護課長（総合企画部長）  
佐合茂樹

## さまざまな行事

お花見、花火大会の鑑賞、クリスマス会など四季を感じていただける行事を行っています。



クリスマス会



春の花見会



双龍太鼓



花火大会

入院の要件及び入院申込に必要な書類等は、次のとおりです。なお、詳細な内容については、中部療護センター（TEL:0574-24-2233）へ直接お問い合わせください。

### 入院の要件

自動車事故により脳損傷を生じ、次の項目全てに該当し、重度の精神神経障害が継続する状態にあり、治療及び常時の介護を必要とする方になります。

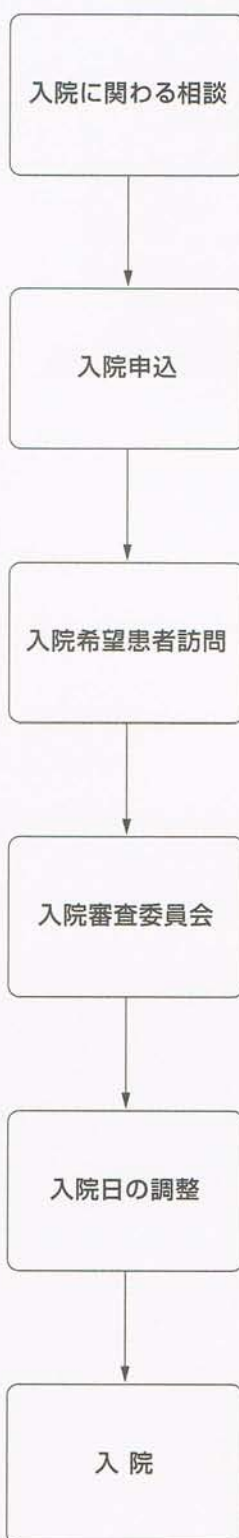
- ❶ 自力移動が不可能である。
- ❷ 自力摂食が不可能である。
- ❸ し尿失禁状態にある。
- ❹ 眼球はかろうじて物を追うこともあるが、認識はできない。
- ❺ 声を出しても、意味のある発言はまったく不可能である。
- ❻ 目を開け、手を握れというような簡単な命令にはかろうじて応ずることもあるが、それ以上の意思の疎通は不可能である。

### 入院申込に必要な書類

- ❶ 入院申込書
- ❷ 戸籍謄本又は抄本
- ❸ 住民票（世帯全員）
- ❹ 精神神経障害に関し医師が診断した証明書類（重度意識障害者診断書）
- ❺ 自動車事故証明書
- ❻ 所得証明書
- ❼ 治療、介護等に関する費用の支払状況を証する書類（費用支払証明書）
- ❽ その他受託病院の長が特に必要と認める書類

### 入院の承認

入院の承認にあたっては、上記の入院の要件に該当する方について、治療及び介護の必要性、脱却の可能性、所得の状況等を総合的に判断して行います。



入院に関わる相談等は当センターへお気軽にお問い合わせください。

入院希望の申し出があった時点で必要書類をお渡しいたします。その後、入院に必要な書類をそろえて当センターに提出していただけます。

医師、看護師、その他病院職員が患者様のもとへ訪問に行かせていただきます。その際に患者様の状態を診察させていただき、またご家族の方々や病院への訪問の場合は主治医の先生方にもお話を聞かせていただきます。

診断書や入院希望患者訪問の際の診察や資料をもとに入院の審査を行います。入院審査委員会は、外部の専門家によって行われます。入院審査委員会の結果、入院できない場合もありますのでご了承ください。

入院審査委員会の結果、入院が決定しましたら入院日の調整を行います。

入院期間は2年。

自動車事故により脳損傷を生じ重度の後遺障害となられた方や家族の方に、医学的管理の下で適切な診察や検査、専門家による在宅看護のケア方法などについて助言・指導を行います。

#### 1 入院対象者…次の全てに該当する方

1. 自動車事故による脳損傷を生じた方
2. 自動車事故対策機構の介護料を受けている方で、「特I種」及び「I種」の方

#### 2 入院期間

1. 1回の入院は2日以上14日以内です。(医師の判断によります。)
2. 1年間で30日まで入院可能です。

#### 3 入院の内容

1. 医師による診察・検査
2. 医療行為又は経過観察
3. 患者家族への在宅看護技術(病状観察法、入浴法、食事法等)の指導・アドバイス  
注)脳神経外科以外の医師に係る診療・処置は原則として行いませんので、事前の問い合わせの際にご相談下さい。

#### 4 入院の申し込み

事前に電話にて、中部療護センター庶務課までお問い合わせ下さい。(TEL:0574-24-2233)

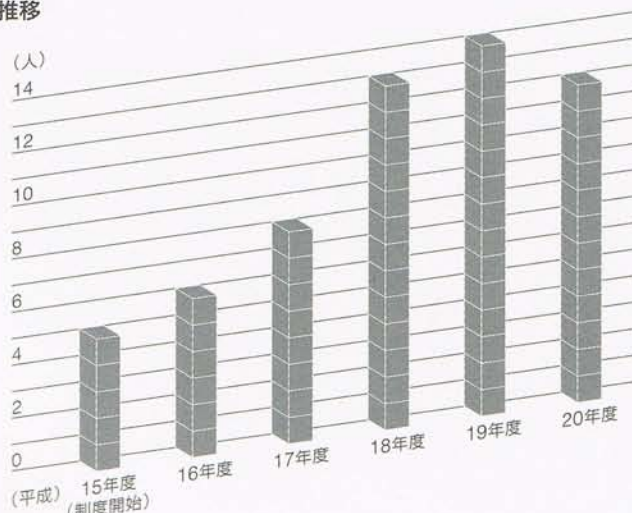
1. 短期入院申込書の書式を郵送します。
2. 送付された短期入院申込書、在宅療養中の医師の紹介状により入院の可否を決定します。  
(入院決定後、入院時期の調整を行います。)
3. 入院の受付は、入院希望の3ヶ月前より行います。

#### 自動車事故対策機構では短期入院に要する費用を助成します。

入院に要する自己負担額のうち、患者移送費、室料差額、食事負担金を助成する「短期入院費用助成制度」(入院日数×1日あたり1万円で換算した額を上限として年間30万円以内の範囲内で支給)がございます。

※詳しくは、独立行政法人 自動車事故対策機構本部又は最寄りの支所にお問い合わせ下さい。

#### 短期入院利用者の推移

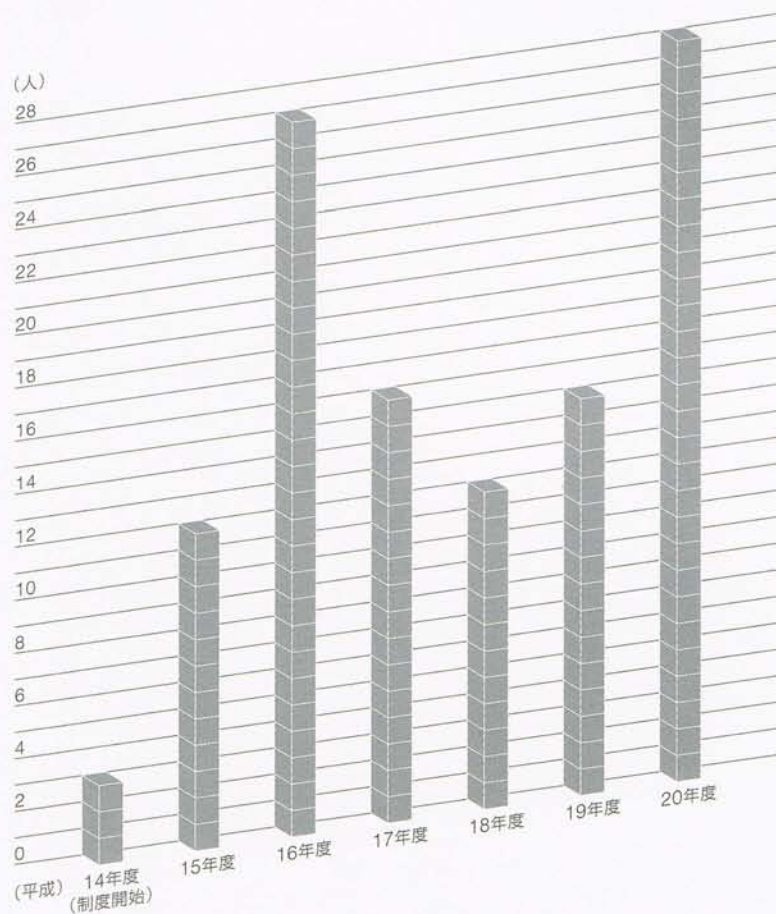


ショートステイとは、介護しているご家族が、様々な理由により患者様の一時的な保護を必要とされる場合に、短期間療養センターに入所していただく制度です。  
ショートステイは、短期入院とは異なり医療行為は行いません。

#### ご利用の条件等

岐阜県在住で、自動車事故対策機構の介護料受給者であること。  
詳細は中部療養センター庶務課までお問い合わせください。

#### ショートステイ利用者の推移



介護料は、自動車事故が原因で、脳、脊髄又は胸腹部臓器を損傷し、重度の後遺障害を持つため、移動、食事及び排泄など日常生活動作について常時又は随時の介護が必要な状態の方に支給します。

注)本制度は、自動車事故対策機構が事務取扱いを行います。

したがって、本制度に関するお問い合わせなどは、最寄りの自動車事故対策機構各支所にお問い合わせください。

### 支給金額

その月の介護に要した費用(訪問看護等在宅介護サービス、介護用品《品目限定》の購入・修理)の額に応じ、受給資格の種別ごとに次の範囲内で月額をもって支給いたします。

なお、介護に要した費用が下限額に満たない場合には、下限額を支給いたします。

	種別	金額
最重度	特I種	68,440円～136,880円
常時要介護	I種	58,570円～108,000円
随時要介護	II種	29,290円～54,000円

### 申請手続き

介護料の支給を受けるためには、受給資格の認定申請が必要となります。

#### 申請に必要な書類

- 1 介護料受給資格認定申請書(自動車事故対策機構ホームページ及び各支所に用紙を用意してあります。)
- 2 戸籍謄本：(家族全員のもの)
- 3 住民票：(家族全員のもの)
- 4 所得証明書：税務署又は市町村役所(場)にて発行  
(対象者及び家族全員のもの。ただし、学生・乳幼児などを除きます。)
- 5 自賠責保険等の後遺障害等級認定通知書(注)
- 6 誓約書：(対象者が受給資格の喪失要件に該当しないことを誓約)  
(注)自賠責保険後遺障害等級の認定を受けていない方
  - a. 交通事故証明書：(自動車安全運転センターにて発行)
  - b. 事故時の診断書：(主たる負傷部位及び入院期間の記載のあるもの)
  - c. 重度後遺障害診断書：(自損事故の方及び最重度を希望される方)

●介護料受給資格認定申請書類は、お近くの自動車事故対策機構各支所にご提出下さい

受給資格の認定後、具体的な介護料受給方法について記載した「介護料受給の手引き」をお送りします。

※詳しくは、自動車事故対策機構の本部又は最寄りの支所にお問い合わせください。

## 自動車事故専門の病院

### 療護センターは

自動車事故による脳損傷によって、重度の後遺障害が残り、治療と常時の介護を必要とする方に対し、社会復帰の可能性を追求しながら適切な治療と看護を行う、重度後遺障害者（遷延性意識障害者）専門の病院です。

このような療護センターはNASVA(ナスバ) 独立行政法人自動車事故対策機構によって全国4か所に、また、療護センターに準じた治療と看護を行う療護施設機能委託病床が2か所に設置・運営され、最新の設備による適切な治療と看護を提供しています。



### ■ NASVA 療護センター

#### 中部療護センター



業務開始：平成13年7月  
運営委託：社会医療法人厚生会  
総合病院 木沢記念病院  
所在地：岐阜県美濃加茂市古井町  
下古井630  
TEL：0574-24-2233  
ベッド数：50床

#### 千葉療護センター



業務開始：昭和59年2月  
運営委託：医療法人社団誠馨会  
千葉中央メディカルセンター  
所在地：千葉市美浜区磯辺3-30-1  
TEL：043-277-0061  
ベッド数：80床

#### 東北療護センター



業務開始：平成元年7月  
運営委託：財団法人広南会 広南病院  
所在地：仙台市太白区長町南4-20-6  
TEL：022-247-1171  
ベッド数：50床

#### 岡山療護センター



業務開始：平成6年2月  
運営委託：社会福祉法人恩賜財団  
済生会支部岡山県済生会  
岡山総合病院  
所在地：岡山市西古松2-8-35  
TEL：086-244-7041  
ベッド数：50床

### ■ NASVA 療護施設機能委託病床（北海道、九州）

#### 医療法人医仁会 中村記念病院（病床委託）



業務開始：平成19年12月  
所在地：札幌市中央区南1条西14  
TEL：011-231-8555  
(内線451,460)  
ベッド数：12床

#### 特定医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院（病床委託）



業務開始：平成19年12月  
所在地：久留米市津福本町422  
TEL：0942-35-3322  
(内線6001)  
ベッド数：20床  
(写真は聖母病棟)

# 広域アクセス

## 交通機関のご案内

- JR高山本線 美濃太田駅下車 徒歩10分
- 名鉄広見線 日本ライン今渡駅下車 タクシー5分
- 国道41号線 東濃鉄道バス 神明堂下車 徒歩3分
- 東海環状自動車道 美濃加茂ICから車で5分



# 近辺の道路地図



独立行政法人  
自動車事故対策機構

## 中部療護センター

〒505-0034 岐阜県美濃加茂市古井町下古井630  
Tel.0574-24-2233 Fax.0574-24-2230  
<http://ryougo.kizawa-memorial-hospital.jp/>

---

設置  独立行政法人 自動車事故対策機構

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-1-25(上智麹町ビル)  
TEL 03-5276-4458又は、4479(被害者援護部) FAX 03-3239-9336  
<http://www.nasva.go.jp>

運営  社会医療法人厚生会 総合病院 木沢記念病院

〒505-8503 岐阜県美濃加茂市古井町下古井590  
TEL 0574-25-2181(代表) FAX 0574-26-2181  
<http://www.kizawa-memorial-hospital.jp>

---